

# English Wind

小学校全教職員及び

中学校英語科担当教員配布


英語教育の



## 1 「書くこと」における小中連携 ～小中連携シリーズ①～

小学校外国語が教科となり、4年目となります。中学校の先生からは、「子どもたちは、入学してすぐに英語で自己紹介ができています！」「聞く力が高い！」等の喜びの声が上がる一方、「話せるのに、書けないの？小学校で英語の授業が始まって、たくさん学んできているのに」という声も聞こえてきます。また小学校の先生からは、「子どもたちが中学校に入学したら、急に英語が難しくなったと言っているけど、どうしたのかしら」という声が聞こえます。もしかすると、小・中学校の先生方が双方の学習内容を互いに理解できていないことが原因かもしれません。今回は「書くこと」における小中連携について考えてみましょう。

### 「書くこと」の目標

小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
<p>外国語活動では、「書くこと」の目標がないのですね！（「読むこと」の目標もありません。）</p> 	<p>ア <u>大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする</u>。また、語順を意識しながら <u>音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする</u>。</p> <p>イ <u>自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする</u>。</p> <p>小学校外国語では、「音声で十分に慣れ親しんだ」ものを書くようにするのですね！</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</p>

この表を見ると、「書くこと」において小学校でできるようにさせたいことは、以下の3つになります。

- アルファベットの大文字、小文字を活字体で書くことができる。
- 十分に慣れ親しんだ表現を書き写すことができる。
- 例文を参考にして、単語を入れ替えたりして書くことができる。



## 2 小学校 「書くこと」指導のポイント

前述の3つの項目については下記の点に注意して指導しましょう。

### ○ アルファベットの大文字、小文字を活字体で書くことができる。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」には、文字を書く指導について次のように書かれています。

文字を書く指導に当たり、大文字、小文字を活字体で書かせる際には、「a, c, e」, 「f, l」, 「g, y」など文字の高さの違いを意識させたり、「p, q」, 「b, d」など紛らわしい形など意識させたりするなど、指導の工夫をする必要がある。また、Aa からアルファベット順に指導すべきものとするのではなく、どの文字から書く指導をした方が児童にとって効果的であるかを考えることも大切である。例えば、A, H, I などの左右対称の文字、Cc, Jj, Kk などの大文字と小文字の形がほぼ同じ文字等、文字の形の特徴を捉えて指導するなど工夫することが大切である。

### ○ 十分に慣れ親しんだ表現を書き写すことができる。

子どもたちの中には、日本語でも、書くことに困難を抱えている子どもたちがいます。ただ書き写させるだけではなく、「そら書き」や「なぞり書き」など、ていねいにステップを踏んで指導しましょう。

### ○ 例文を参考にして、単語を入れ替えたりして書くことができる。

例文や例示された語句を一部または一文、自分が表現したい内容に置き換えて書きます。その際には、児童の書きたい気持ちを大切に、ドリルのように無味乾燥な書く練習にならないようにしましょう。

参考：直山木綿子「小学校外国語教育の指導と評価」文溪堂

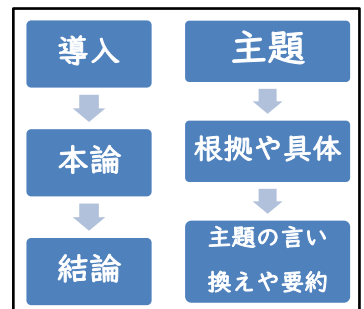
## 3 中学校 「書くこと」指導のポイント

### ○ 音声で学んだことを書く。

小学校では音声重視の授業に取り組んでいます。中学校段階でも、特に1年生においては、音声で学び理解したものについて書かせるようにしましょう。すでに小学校で学んだ語句や表現であっても、生徒は見ないで書けるようにはなっていません。書けるようになるには時間がかかるものです。焦らずじっくりと時間をかけて取り組んでみましょう。

### ○ まとまりのある文章を書くことができる。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」には「『まとまりのある文章を書く』とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くこと」と書かれています。生徒は最初からたくさん書けるわけではありません。1年生の1学期は3文程度、3学期終了時には6文程度を書けるようにするなど、書くことの量的な指導計画を立ててみましょう。また、右図のように文章構成の特徴を意識させる指導も重要になります。生徒の学習状況に応じて、継続的に取り組んでみましょう。

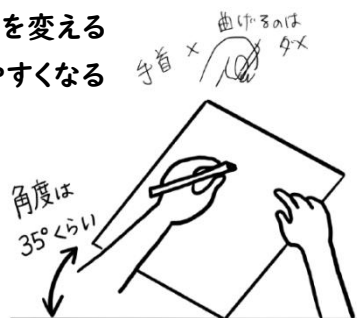


## 4 書くことにおけるユニバーサルデザイン 左利き児童生徒への支援

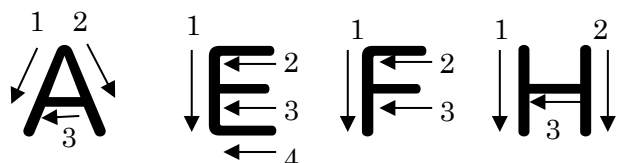
少しの工夫で  
書きやすくなり  
ます!



ノートの角度を変える  
だけで書きやすくなる



大文字は書きやすさ重視



村上加代子 英語授業研究会第34回全国大会  
発表資料より